

女子決勝 仲西一神森 鋭いカットインからシュートを決める安里こころ
(仲西)。左端は上地涼奈(仲西)=11日、八重瀬町東風平運動公園体育館



美東(男子)、仲西(女子) 頂点

県中学秋季ハンド

ハンドボールの八重瀬町長杯争奪第30回県中学校秋季大会最終日は11日、八重瀬町東風平運動公園体育館で男女の決勝までが行われ、女子は仲西が24-16で

神森に勝ち、3年ぶり6度目の頂点に立った。男子は美東が貝志川を35-24で破り、初優勝を飾った。

【男子】

▽準決勝

美 東 30 1911
1314 27 浦 添
貝志川 30 1515
13 9 22 真志喜

▽3位決定戦

浦 添 37 1819
1312 25 真志喜

美 東 35 1619
1113 24 貝志川

【女子】

▽準決勝

神 西 28 1315
9 10 6 16 宮 里
美 東 21 7 14
6 10 16 宮 里

▽決勝

仲 西 24 15 9 6 16 神 森

積極プレーで流れ

女子決勝は、厚い選手層を持つ仲西が競り勝った。互いに攻め手を欠いた後半5分だった。後半は仲西2点に対して、神森は0点。緊迫した展開に仲西の

を決めると、続く攻撃でもミドルシュートを決め、流れを呼び込んだ。ベンチから見えていたわずかな時間で、「逆サイドを使えていなかった」と、落ち着きを取り戻した安里がコートに戻る。安里はミドルシュートや鋭いカットイン、絶妙なポストへのパスで好機を演出。安里の攻撃的なプレーに引張られるように、守りも激しさを増していき、パスカットからの速攻で着実に得点を重ねた。

焦点

神谷加代子監督は「攻撃を落ち着かせ、リズムを変えたい」と、主将の安里こころに代え、1年の上地涼奈を起用した。代わった上地はわずか10秒でシュート

た。出場選手はほぼ全員9人が満遍なく得点を挙げ、3年ぶりの頂点に再び咲いた。神谷監督は「前半は動きが止まっていた。もっと守りから速攻を出さないと勝てない」と、優勝にも表情を緩めなかった。安里主将は1月の県新人戦に向け「誰が出場しても体を張って守ることが大事」と、こちらも守りを課題に挙げ、連覇に意欲を見せた。(久田尚志)

男子決勝 美東―具志川 我如古龍生（美東、右から2人目）から絶妙のパスをもらい、シュートを決める仲原新（美東）



堅守速攻さえ 中頭対決制す

美東

○…中頭地区勢の対決となつた男子決勝は、堅守速攻が光つた美東に軍配が上がつた。

序盤こそ具志川のエース玉城一樹を止められず一進

一退の攻防となつたが、高い位置から玉城を守ることで動きを封じ、徐々にペースを握る。前半10分を過ぎると、仲原新や安里吉貴が速攻で次々とシュートを決め、セットの場面は我如古龍生や内間康介がサイドから個人技で崩すなど、一方的な展開に持ち込んだ。

11点差の快勝にも、与久田学監督は「周りが新チームになる中で、うちはレギュラーメンバーがたまたま残っていただけ」と表情を引き締め、主将の安里も「これからほかのチームは成長してくると思うが、1月の県新人戦でも勝たなければならぬ」と話した。